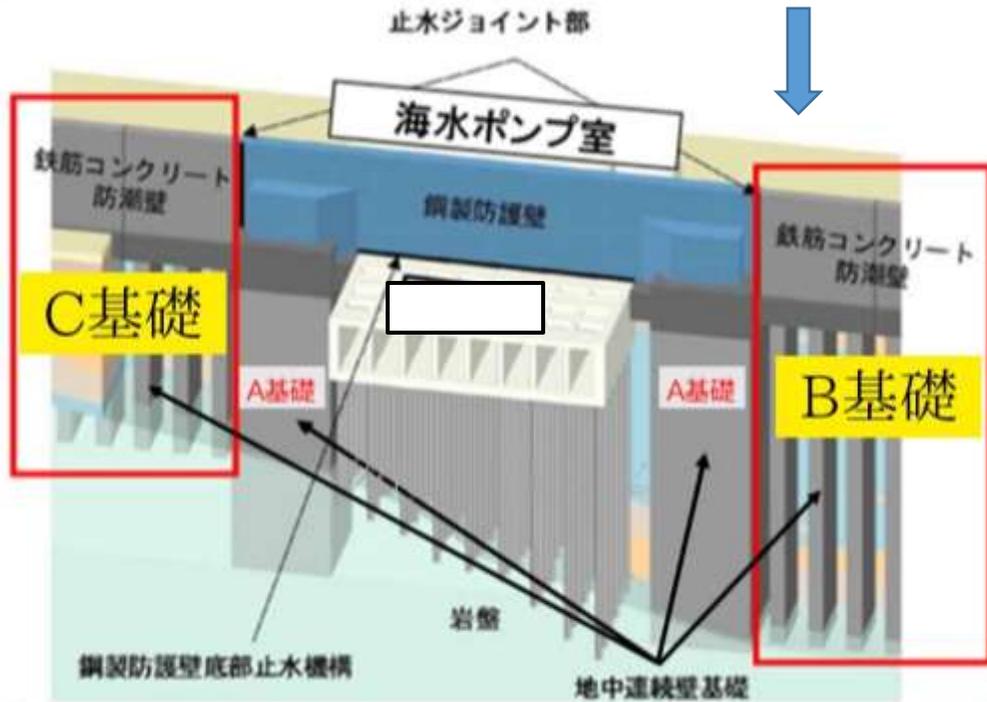


東海第二原発の状況

2024年11月21日(大名)

下図のB基礎及びC基礎においても不具合があり、調査が必要との新たな告発がありました。



(1)

鋼製防護壁に隣接する「鉄筋コンクリート防潮壁の地中連続壁基礎(B基礎)」についても施工不良がある」との証言が、工事関係者から寄せられた。B基礎は、施工不良のあった鋼製防護壁の地中連続壁基礎(南基礎・北基礎=A基礎)と同じJV(共同企業体)が施工し、同じエリアで同じ工法、同程度の深さであることから同様の施工不良が起きている可能性を否定できない。B基礎には上部工の鉄筋コンクリート防潮壁が設置されているため基礎部分の目視確認はできない。基礎周囲を掘るなどの調査を行って不良の有無を明らかにすべき。

【原電の回答】

B・C基礎に施工不良はないと評価している。①A基礎(南・北)の施工不良は後工エレメントや、つなぎ手部で起きている。先工エレメントでは見られないため、それと同じ構造のB・Cでも起きていないと評価した。②A基礎のように施工不良の有無を目視で確認していないが、無いはず。③施工業者から不備の報告は

なく、CR(コンディションレポート)にも記載はない。

(2)

工事完了を2024年9月から2026年12月に延長することについて、施工不良のあった鋼製防護壁の地中連続壁をどのようにやり直すのか原子力規制委員会での審査が終わっていないにも関わらず、そのタイミングで2年3ヶ月の工期延長で完了できると結論付けた根拠は何か。

【原電の回答】

残工事の資材調達や作業員確保、防潮堤施工不良の対応、テロ対策施設の完成などを見通して工期を決定。工期延長に伴う経費増の見込みを請負業者と調整中。

(3)

施工不良のあった取水口部の防潮堤工事の他にも2024年9月に完了しない対策工事の有無と、遅れている工事内容や進捗状況を示してほしい。

【原電の回答】

防潮堤以外で終了していない工事もあるが、全体の進捗率を数字で示すのは難しい。防潮堤だけでみれば、安藤ハザマ以外の鹿島・大成・大林の工区はほぼ完成して、全体で87%完了とみている。フィルタ付バントを含むテロ対策施設については言えない。

*原電は、取水口防潮堤の工事を安藤ハザマ・五洋建設・若築建設JVに発注。昨年9月、施工不良の告発は、これら工事関係者から寄せられました。



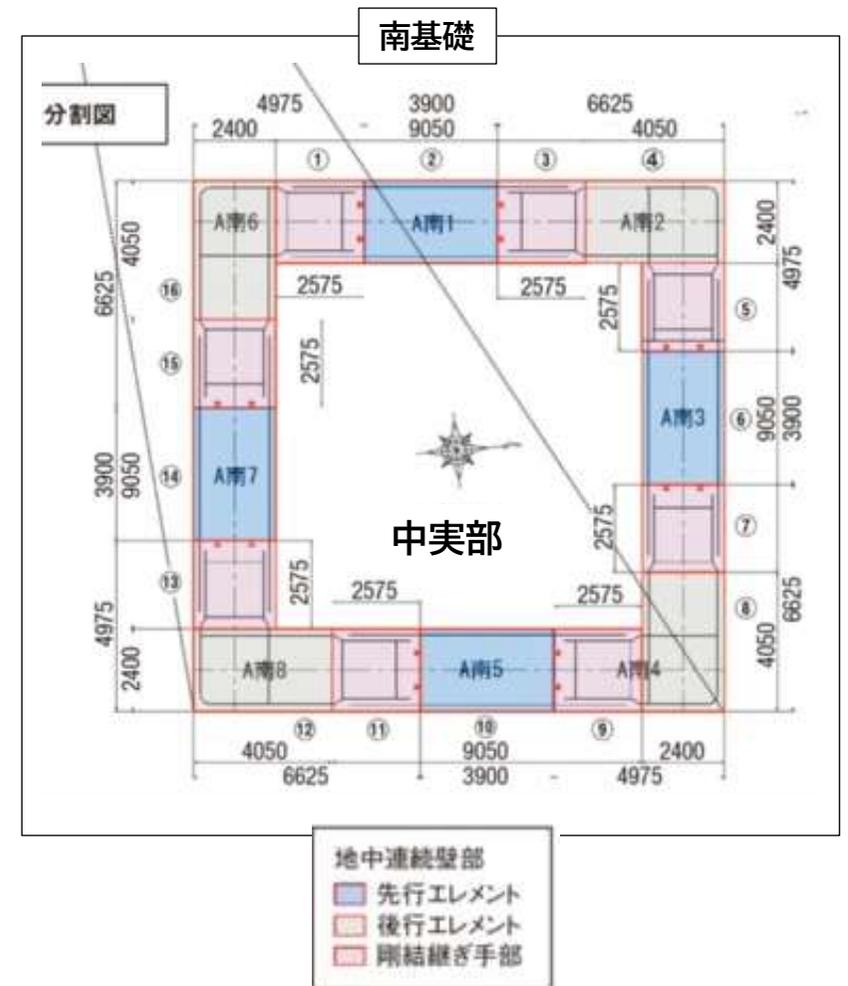
(4)

①施工不良のあった地中連続壁の設計変更について、10月に規制委員会に説明できなかったのは何故か。次回の公開審査会合ができるのはいつごろの見通しか。

②地中連続壁を基礎として使用しない前提で強度を確保するためとして、周辺地盤の改良や鋼管基礎の追加、中実部基礎の強化を検討しているが、A基礎(南・北)のすぐわきにB・C基礎があることを踏まえると、地盤改良や鋼管基礎工事によって既存のB・C基礎を痛めるなど悪影響を起こすのではないか。

【原電の回答】

①設計変更の詳細な解析を進めている段階。まだ事前説明はできていない。11月にできるとは言い切れない。
②そうしたことは想定されるので、地盤改良はA基礎の周囲全体ではなく陸地側の一面のみ行うことで考えている。



(5)

2024年8月30日に発生した非常用ディーゼル発電機2D室配管貫通部からの雨水侵入に関する状況を説明してほしい。

- ①発生した時間及び県と東海村への通報時間は何時か。
- ②発電機室に雨水や海水の侵入はあってはならないことではないのか。
- ③東海第二原発に非常用発電機及び発電機室はいくつあるのか。
- ④発電機室はどの場所にあり、海拔何メートルに設置されているのか。
- ⑤2D室には配管貫通部は何カ所あり、それら配管は今も必要なのか。
- ⑥雨水はどのようなルートで侵入したのか。
- ⑦雨水が約1.5トン侵入したとのことだが、水位は床上何センチメートルか。
- ⑧発電機などの機械設備は濡れたのか。
- ⑨修繕とはどのような内容か。コーキングをやり直しただけなのか。

【原電の回答】

②⑥⑦⑧⑨のみ回答。

発電機室への雨水侵入はあってはならないこと。発電機室に隣接して新規基準適合のために新たな施設を建設することに伴って側溝ができて雨水がたまり、発電機室の隙間から入ってしまった。その後、隙間は補修してふさいだ。床に何センチもたまるような侵入ではなく、発電機も濡れていない。

非常用ディーゼル発電機2D室配管貫通部からの雨水侵入に関する原電の広報

原電ホームページから

東海・東海第二発電所の近況について（2024年9月）の、5. その他トピックスの②に書かれています。

②東海第二発電所非常用ディーゼル発電機2D室内及び電気室内（非管理区域）における水溜まりの確認について

8月30日、東海第二発電所非常用ディーゼル発電機2D室等（非管理区域）の床面において水溜まりを確認しました。

この水溜まりは、安全性向上対策工事に伴い未使用となった建屋内外を貫通する配管（止水処置済み）の隙間から風雨により雨水が浸入したものです。浸入した雨水の排水処理は完了しており、雨水の浸入による機器への影響はありません。現在は、屋外にて仮の止水・排水対策を実施するとともに、類似箇所がないことを確認しています。今後、当該箇所について必要な対策を実施してまいります。

なお、東海第二発電所においては、重要設備の機能を確保するための建屋内への流入防止対策として、既に水密扉への取替等も完了していますが、防潮堤等の設置により、さらなる安全性を確保してまいります。

(6) 日本原子力発電株式会社 東海・東海第二発電所 原子力館（PR館）における火災について（速報）

24年11/21(木)10時28分に日本原子力発電株式会社東海・東海第二発電所 原子力館(PR館)(非管理区域)において、協力会社社員が空調のスイッチを入れたが起動しなかったため、空調用電源盤を点検したところ、変圧器に焦げ跡を確認した、というもの。原因その他の報告は、今後になると思います。

原電ホームページをご覧ください。 [241121.pdf](#)

茨城県のホームページ [241121gendennkasai.pdf](#)

東海村のホームページ [【11月21日現在】日本原子力発電株式会社東海・東海第二発電所原子力館（PR館）における火災について／東海村](#)

電気代抑制へ原発「最大限」活用 経済対策案、低所得世帯に給付金

2024年11月8日 20時52分（共同通信）

政府が11月に取りまとめる経済対策案の概要が8日判明した。電気代の抑制に向け「安全性が確保された原子力発電は、最大限の活用を進める」とした。原発の最大限活用を盛り込むのは異例だ。生活支援策として低所得世帯向け給付金を含める。「年収の壁」見直しも明記する方向で、自民、公明の連立与党と国民民主党は8日、具体策に関する政策協議を始めた。

経済対策では電気・都市ガス代やガソリン料金の補助も実施。国民は年収が103万円を超えると所得税が発生する年収の壁引き上げを主張している。経済対策の裏付けとなる2024年度補正予算は有権者の支持を得るため巨額となりそうで、財政状態の悪化が懸念される。政府は22日にも経済対策を閣議決定する。

原発を最大限活用する方針は、岸田政権下で22年12月に決定した「GX(グリーン・トランスフォーメーション)実現に向けた基本方針」でも掲げられた。石破茂首相が10月に実施した所信表明演説では、原発の「利活用」との表現にとどまっていたが、岸田政権の方針を踏襲する。

経済対策案の概要	
	エネルギー価格上昇に伴う物価高の克服に向け「安全性が確保された原子力発電は、最大限の活用を進める」
	物価高の影響を強く受ける低所得世帯向け給付金
	電気・都市ガス代やガソリン料金の補助
	自治体が地域の実情に応じた物価高対策に活用できる重点支援地方交付金の対象事業拡大
	半導体支援で「必要な出融資の活用拡大など支援手法の多様化の検討を進める」との文言を盛り込むことを検討

経済対策案の概要